

調査の概要

1 調査実施の概要

(1) 調査の目的

本調査のねらいは次のとおりである。

中学生と高校生の規範意識と行動について、10年前との比較を通して、その変化を把握する。

最近日本では、親の子に対するネグレクトが問題にされているが、中高生の親子関係の実態はどうなっているのか。

青少年の人権擁護の視点から、中高生の生活の実態や健康、安全及び社会参加の意識を把握する。

アメリカ、中国、韓国と比較して、上記の点を中心に日本の中高生の特徴を把握する。

青少年施策や教育現場などに基礎資料を提供する。

また、この調査は財団法人日本青少年研究所、中国青少年研究中心、韓国青少年政策研究院の共同研究で、質問内容は三ヶ国の協議で作られた。

(2) 調査内容

- ・ 健康意識や生活習慣
- ・ 勉強時間、学校の勉強について
- ・ 休日の行動や自由時間
- ・ 悩みや自己に対する認識
- ・ 親子関係
- ・ 規範意識と行動
- ・ 不公平な扱いを受けた経験の有無
- ・ 社会や学校への参加意欲など

(3) 調査対象、実施期日、調査方法

調査対象、サンプル数、調査の実施方法などは表1のとおりである。

表 1 調査方法

	日 本	アメリカ	中 国	韓 国
実施時期	2008年9月～ 10月	2008年9月～ 10月	2008年9月～ 10月	2008年9月～ 10月
調査学校数	中学校9校 高校10校	中学校6校 高校12校	中学校10校 高校10校	中学校43校 高校42校
調査地域	青森県 栃木県 東京都 神奈川県 石川県 静岡県 滋賀県 兵庫県 岡山県 広島県	Durham, NC DeWitt, NY Tulsa, OK Nashville, TN Salem, OR Indianapolis, IN Charlotte, NC Idaho Falls, ID Liberty, MO Elgin, IL Watertown, NY Gallup, NM Eugene, OR St. Paul, MN	北京市 黒竜江省 陝西省 湖北省 浙江省	ソウル 京畿道 忠清道 全羅道 慶尚道 江原道
サンプル数	中学校 807 票 高校 1210 票	中学校 852 票 高校 1003 票	中学校 1001 票 高校 1128 票	中学校 1133 票 高校 1143 票
調査方法	集団質問紙法 (学校を通じてアンケート用紙を配布し、回収)			

(4) 調査対象者の基本属性

		中学生				高校生			
		日	米	中	韓	日	米	中	韓
性別	1. 男	60.0	50.2	41.5	52.9	49.9	50.0	46.2	49.2
	2. 女	39.5	49.7	57.7	47.1	49.9	49.7	53.1	50.8
	無回答	0.5	0.1	0.8	0.0	0.2	0.3	0.7	0.0
学年	1. 1年生	24.9		5.9	28.6	41.9	38.5	34.9	36.6
	2. 2年生	51.2	69.0	52.7	42.1	36.0	37.0	32.1	48.2
	3. 3年生	20.4	31.0	40.8	29.3	18.0	24.5	31.8	15.2
	無回答	3.5	0.0	0.6	0.0	4.1	0.0	1.2	0.0
学校種類	1. 普通高校					91.6	100.0	67.9	71.4
	2. 職業高校					0.0	-	32.1	28.6
	3. 総合高校					8.3	-	-	-
	実数(人)	807	852	1001	1133	1210	1003	1128	1143

一緒に住んでいる人

	中学生				高校生			
	日	米	中	韓	日	米	中	韓
1. 父親	86.1	66.2	72.2	93.7	84.3	62.1	70.5	88.6
2. 母親	96.3	92.8	79.6	93.5	94.4	86.9	73.4	92.3
3. 兄弟	81.7	72.7	16.3	85.8	76.0	65.8	15.3	85.0
4. 祖父・祖母	22.4	7.0	17.2	15.4	32.4	4.9	14.8	12.2
5. 親戚	0.7	4.3	7.4	5.1	0.9	3.6	3.8	4.2
6. 学校の寮	0.1	0.0	15.5	1.1	2.6	3.7	20.3	2.4
7. 継父・継母	-	10.1	-	-	-	11.1	-	-
8. その他	3.7	3.2	6.1	1.4	2.1	4.5	2.7	1.1
無回答	0.0	0.2	0.2	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0
実数(人)	807	852	1001	1133	1210	1003	1128	1143

(5) 調査共同研究機関

中国青少年研究中心、韓国青少年政策研究院

2 調査結果の概要

(1) 起床・睡眠時間と朝食

起床時間：日本の中学生の6割弱が「6時半過ぎ～7時半」に起き、高校生の6割弱が「6時半まで」に起きる。中国の中高生の起床時間が最も早く、「6時半まで」に起きる者が9割もいる。

睡眠時間：韓国の生徒が最も遅い。「0時以降」に寝る米中の中学生がわずかだが、日本の中学生が3割、韓国中学生が5割もいる。また、「1時以降」に寝る日本の高校生が25.4%、韓国の高校生が37.2%で、米中では5%にも満たない。

朝食：「毎日食べる」と答えた者は日本の中高生が最も多く、8割を超えた。アメリカの高校生が最も少なく3割しかいなかった。

(2) 悩み

悩みについて、「勉強がきつい」が各国とも1位となっている。そのほかに、日本と韓国では「容姿やスタイルがよくない」、中国では「余暇生活が退屈である」、アメリカでは「友達と付き合う時間がない」が挙げられる。

また、「学校へ行きたくないと思ったことがよくある」という者は、各国とも中学生より高校生が多く、日米韓の高校生が2割台、中国の高校生が1割となっている。

学校へ行きたくない理由では「朝起きるのが苦痛」「体がしんどい・調子が悪い」「勉強がつまらない」「勉強したくない」が上位に入っている。

(3) 自己に対する認識

「私は人並みの能力がある」「自分はダメな人間だと思う」「自分の意思をもって行動できるほうだ」では、日本の中高生は、他の国に比較して、自分の能力に対する信頼や自信に欠けている。

(4) 勉強時間

平日一日の勉強時間の平均は中国が最も多く、普通高校の高校生と中学生が14時間もあり、日本のほぼ倍である。韓国も長く、中学生で10時間弱、普通高校の生徒で12時間を超えている。

10年前と比較して、日本では1日の勉強時間の平均は中学生で2時間、高校生で1時間半ほど減少している。

(5) 学校の勉強について

学校の勉強を「きつい」「とてもきつい」+「まあきつい」と感じている日本の高校生が約8割で、4ヶ国で最も多い。中学生では4ヶ国とも5割前後である。

(6) 休日の行動

日本：「テレビを見る」「家でゴロゴロする」「友だちと遊ぶ」「勉強」

米国：「友達と遊ぶ」「インターネットを楽しむ」「映画やスポーツ観戦に行く」

中国：「勉強」「家でゴロゴロする」「テレビを見る」

韓国：「テレビをみる」「友達と遊ぶ」「インターネットを楽しむ」

(7) 親子関係

「家族とよく会話をする」「親はよく私を叱る」「親によく反抗する」について、日本の肯定率が他の国より高い。「親は私のことによく干渉する」「家出をしたいと思ったことがある」については韓国と並ぶ高い割合となっている。

一方、「親を尊敬している」「親は私を大切にしてくれる」「親は私の勉強に関心をもっている」「親の意見に従う」では、日本の肯定率が最下位である。

(8) 非行や不適切な行為の経験

「言葉で人をいじめる」「暴力をふるう」の割合が、日本の中学生はアメリカに次いで高い。韓国は、「悪口のメールを送信する」の経験者が6割と突出して高い。

高校生では日本は、際立って割合の高い特定の項目がみられない。

また、1997年と比べて、日本は、「暴力をふるう」「言葉で人をいじめる」の割合が、中学生と高校生ともかなり増加している。「人のものを取る」「公共の物を壊す」ことの経験者も多くなっている。一方、「アダルトビデオや雑誌を見る」「酒を飲む」「タバコを吸う」といった、年齢制限のある行為をした生徒の割合は減っている。

(9) 非行や不適切な行為に対する認識

日本の中高生は「家出をする」「学校をさぼる」「アダルトビデオ(DVD)や雑誌を見る」「アダルトサイトをみる」「売買春」について、「その人の自由でよい」とする割合は他の3ヶ国より高い。

1997年と比較して、日本の中学生では、「その人の自由でよい」の割合が増加しているのは、「暴力をふるう」「人のものを取る」「言葉で人をいじめる」である。その一方で、「アダルトビデオ(DVD)や雑誌を見る」「酒を飲む」「タバコを吸う」といった、年齢制限の設けられた行為について、「その人の自由」とする割合は低下している。高校生になると、「その人の自由でよい」と答えた者の割合が、ほとんどの項目について、低くなっている。

(10) 学校で起こっている不良行為

学校で起こっている不良行為について、日本は、他の3ヶ国と比べて割合の高い項目がみられないが、1997年と比較したところ、日本の中学生では、「殴る蹴るなどの暴力をふるう」と「脅かしたり暴力をふるって金品をとる」について、「頻繁にある」「時々ある」の割合が、高くなっている。「悪口で人をいじめる」と「一人を集団で仲間はずれにする」については、「頻繁にある」が増えている。高校生になると、中学生ほどの差異がみられない。

(11) 学校や社会への参加意欲

学校での生徒自治活動や青少年の社会問題や政治問題への参加意欲について、日本の中高生は消極的な態度を示し、中国とアメリカの生徒は強い参加意欲を示している。